

## 第31回委員会会議結果概要(案)

開催概要	
日時	平成22年8月3日(水) 17時30分～19時10分
場所	千葉県国際総合水泳場
参加者数	50名
出席委員	18名(遠藤茂勝、工藤盛徳、倉阪秀史、榊山勉、宮脇勝、及川七之助、上野菊良、竹川未喜男、三橋福雄、歌代素克、後藤隆、佐々木洋晁、松崎利光、田草川信慈(代理:東条等)、赤塚稔、大林正章、大野二三男、齋藤甚一) :委員長
結果要旨	
<p><b>報告事項</b></p> <p><b>第30回委員会の開催結果概要</b> 事務局から資料1により説明後、質疑応答</p> <p><b>2丁目緑化試験及び砂付試験と現場見学会の結果概要</b> 事務局から資料2により説明後、質疑応答</p> <p>[主な意見及び対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>海砂の方が購入砂に比べて生育状況が良いように見えるがどうか。 海砂の法には雑草が多く生育するため、そのように見えている。試験対象種のみで比較すれば大きな差はない。</li> <li>砂付試験でゴケ類は確認できたか 多少確認できた</li> </ul> <p><b>議題</b></p> <p><b>2丁目(1期)護岸バリエーションについて</b> 事務局から資料3による説明後、質疑応答が行われた。</p> <p>[主な意見及び対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>駅から公園までの道路の計画はどうなっているのか 公園のほぼ真ん中から駅に向う道路を計画している。あくまで計画であるが、事業が実現化すれば、この計画に沿って整備をしていく。(歩車道分離した道路)</li> <li>公園の地盤高さはどう考えているか 護岸の高さと現状の高さを摺りつけるような形を考えている。</li> <li>50mのバリエーション区間の階段ブロックは具体的に決まっているのか。 階段ブロックにすると決まっているだけで厳密には残っている。</li> <li>護岸の機能に必要な断面積について、2割勾配の1丁目と違うのではないか。 海岸保全区域であるか否かで、条件が少し違う。</li> <li>第1期まちづくり地区は、用途変更を行う予定か まちづくりが出来上がった段階で変更する手法をとろうと思っている。</li> <li>市川市は景観計画を持っているが、三番瀬の活用にふさわしい景観計画の内容に一部修正する必要があると思う。景観担当部局にお伝え願いたい。</li> </ul>	

- ・基本は地元がどのようなものを望むのかが優先されるべき。個人的には公園前のバリエーションは三番瀬の玄関口と考え、50m区間と違ったバリエーションを求めるべき。
  - ・砂付け試験の状況が良いため、基本壁の位置を動かさずなどして入り江的な環境を作るなど、三番瀬の再生に寄与するような触れ合える場所の確保をぎりぎりまで追求すべき。
  - ・このバリエーションについて、親水性として水辺まで降りるか降りられないかをはっきり決めておくことが重要。
  - ・海岸保全区域の変更ができるかどうかの問題がある。
  - ・30メートルの幅では守れないため、7.2mの擁壁が建つ区域までは海岸保全区域として指定し直さないといけないと思う。

擁壁がなくても地盤が高い状況が続けば30メートルで済む。この5.65mでもある程度安全度は持っているが、最終的にはこの形が必要。
  - ・公園は来年、再来年にできる話ではないので、公園を前提にした議論は切り離すべき。
  - ・まちづくりの青写真を出して欲しいと前から言っている。どのような施設がどこに出来るのか配置図を描いて欲しい。
  - ・親水性は市川市民が求めていることだと思う。砂を付ける付けない話は別として、水に近づく、触れるといった親水性を求めているのであれば、それに沿った考えで検討すべき。
  - ・下りられるようにした場合に、その部分の越波量や打ち上げ高さを真剣に計算し、安全性を確保する必要が生じる。慎重に考えていかななくてはならない。
  - ・整備案を何ケースかつくって議論を進めたらどうか。
  - ・大胆な案は、市有地である自然再生の場で実施すべきと思う。
  - ・海岸保全区域の幅30mの根拠は何か。胸壁の高さ7.2mは絶対必要なのか。

30mは海岸保全施設を考える上で、30mあればだいたいのもので出来るであろうと考えて設定したものである。胸壁の高さは、東京湾の計画高潮位に波が加わっても安全が確保されるような高さであり、18m後ろで設置した場合に7.2mとなる。

また、1丁目、2丁目、3丁目では打ち上げ高さが違うので、胸壁の高さは変わる。現在は老朽化している前面の護岸整備を優先してきた。背後地の話は今後の課題となる。
  - ・後背地の区画整理について、用途変更を含めて計画的には何年で考えているか。

まだ合意の段階であり、事業認可のための手続きに着手していない。何年に完成というのははっきりしていない。
  - ・実現性はともかく、ウォーターフロントの民地に対して後背地はどうあるべきかという意味では言い続けるポイントではある。
  - ・海に下りたいと希望する人は結構いるように聞いている。海に入れるということは大事ではないか。
  - ・浦安や船橋は水に入ることができ、ここだけは入ることができない。昔のような大規模な砂浜は無理とは思いますが、大部分の人が海に入りたいと希望している。
- (まとめ)
- 親水性があって楽しめる場所にしたいというのが会の総意  
このイメージを基に検討を進める。9月上旬に勉強会を開催する。